平成 29 年 9 月 18 日

南京事件について考えてみましょう。

1. いわゆる「南京大虐殺」とは？

1937 年 12 月に日本軍が中華民国（当時）の首都南京市を占領した際に、約 6 週間に渡って、日本軍が中華民国軍の捕虜、一般市民合計 30 万人を組織的に虐殺したという事件。

注1)　無抵抗の敵を殲滅したのではない。　日本軍にも 1 万人近い戦死者が出た激戦だった（上海戦、南京戦）。

注2)　中華民国軍（国民党軍）の兵士を殺害することは虐殺ではない。　通常の戦闘行為。

注3)　軍服を脱いだ兵士（民間人に変装）は捕虜の対象外（便衣兵、ゲリラ）。

2. 当時、「南京での日本軍の残虐行為」を主張した人物（まだ大虐殺という言葉はない）

a) 蒋介石、宋美齢（蒋介石夫人、実質的な国民党のスポークスマン）。　「蒋介石秘録」（産経新聞）。

→　そもそも蒋介石は南京戦の前に逃亡している。　南京防衛司令官の唐生智も逃亡。

→　蒋介石の台湾での評価は低い。　二・二八事件（1947 年 2 月 28 日に台湾の台北市で発生し、その後台湾全土に広がった、中国国民党政権（外省人（在台中国人））による長期的な白色テロ、すなわち民衆（当時はまだ日本国籍を有していた本省人（台湾人）と日本人）弾圧・虐殺の引き金となった事件）。　蒋介石国際空港を桃園国際空港と改名。

→　「南京事件の真実」（田中正明）。　蒋介石が虐殺を否定。

b) ハロルド・ティンパーリ（オーストラリア人、AP 通信特派員、ジャーナリスト）

→　「戦争とは何か - 中国における日本の暴虐」という著書がある。

→　国民党ロンドン支部の責任者だったことが判明している。　東京裁判には出廷せず。

c) ジョン・マギー（アメリカ人、宣教師、南京国際赤十字委員長、東京裁判の検事側証人）

→　弁護人反対尋問で「実際に観たのは婦女暴行 1 件で残りはすべて伝聞」と証言。

→　「マギー・フィルム」（2015 年にユネスコ世界記憶遺産）。　資料価値なしとされ、東京裁判には提出されなかった。

d) マイナー・シール・ベイツ（アメリカ人、歴史学者、金陵大学教授、南京安全区委員、東京裁判検事側証人）

→　ベイツ自身が目撃した虐殺はない。

→　すべて伝聞。　著書で 4 万人大虐殺、東京裁判では、1 万 2 千人虐殺を証言している。

→　国民党顧問であり、蒋介石から勲章をもらっていることが判明している。

→　20015 年。　ベイツ証言がユネスコ世界記憶遺産に登録された。

e) エドガー・スノー（アメリカ人、ジャーナリスト、「中国の赤い星」の著者）

→　南京戦の最中は上海に居た。　すべて伝聞。

→　「マオ 誰も知らなかった毛沢東」ユン・チアンで毛沢東の神格化に加担したスポークスマンと批判されている。

f) フランク・キャプラ（アメリカ人、映画監督、「バトル・オブ・チャイナ」）

→　マーシャル国務長官が指示したプロパガンダ映画であることを本人が認めている。

3. 東京裁判（南京裁判）での弁護側証言

g) 松井石根（上海総司令官、A 級戦犯として絞首刑）

→　大虐殺は終戦後の米軍放送で初めて知った。

→　他、日本軍人に対する尋問で、すべての軍人が「散発的な風紀違反による殺人、婦女暴行はあった。　厳しく処罰した。　組織的な虐殺命令などない」と証言。

→　松井石根、広田弘毅、向井敏明、野田毅らが A 級、BC 級戦犯として絞首刑。

→　「松井石根と南京事件の真実」早坂隆に詳しい。

＊　59 歳の時に予備役から出征。　筋金入りの日中友好論者。

＊　国際法学者を随行。

＊　軍紀を引き締め、皇威を保つ命令を何度も出している。　「南京城攻略要綱」。

＊　農村の収穫を手伝い。

＊　降伏勧告文の撒布。

＊　歴史的建造物（中山陵等）への攻撃禁止命令。

＊　焼け跡から女の赤ちゃんを発見。　松子と命名し、知人の養女とした。

＊　私財を投じて興亜観音を建立。　A 級戦犯 7 人の遺骨が匿われた。

以上が戦中、戦後まもなくの状況。　その後、「いわゆる南京事件」がクローズアップされるのは 1970 年代に入ってから。

4.　1971 年　「中国の旅」本多勝一、朝日新聞の日本軍批判大キャンペーン
→　南京大虐殺、百人斬り、三光作戦、万人坑などが改めてクローズアップ。
→　中国共産党が用意した証人の発言を記述しただけで、裏付け取材は全くしてないことを本多本人が認めている。
→　写真もほとんどが誤用であることを本多本人が認めている。
→　文句があったら中国共産党に言ってくれと開き直っている。

5.　1985 年　南京大虐殺記念館設立（抗日戦勝利 40 周年記念行事、鄧小平の指示）
→　建設費は日本社会党が出している（田辺誠委員長）
→　南京攻略戦とは関係のない展示品が多数あることが日本の研究家から指摘されている（南京では使われていない兵器等）。
→　ねつ造された展示写真が多い（「南京事件 証拠写真を検証する」東中野修道）

6.　1991 年　「南京事件の日々 - ミニー・ヴォートリン（アメリカ人宣教師、金陵女子大教師）の日記」笠原十九司
→　日本兵が乱暴をはたらいていたことが日記に書かれているが、とても大虐殺を正当化する資料足り得ない（基本的に金陵大学内のことが書かれているのみ）。
→　日記の半分は国民党の乱暴な振る舞いが記されている。

7.　1996 年　「ラーベの日記」ジョン・ラーベ（南京安全区国際委員長、シーメンス南京所長、ナチス党員）の日記を孫がリライトしたもの。
→　南京安全区国際委員会（委員長はジョン・ラーベ）が当時の南京市の人口は 20 万人だったと記録している。　数か月後の日本軍による住民登録によれば日本軍占領中に 25 万人に増えている。
→　安全区に居た外国人（親分はジョン・ラーベ）が日本公使館に抗議した殺人事件の記録が残っており、その数 49 人。
→　2009 年 ドイツ、フランス、中国合作で「ジョン・ラーベ 南京のシンドラー」という映画が作られた。　映画では香川照之演じる朝香宮鳩彦王（やすひこ）が虐殺を命じたことになっている。　日本では未公開。

8.　1997 年　「レイプ・オブ・南京」アイリス・チャン（アメリカ人、小説家）
→　副題が「忘れられたホロコースト」。　ナチスによるユダヤ人虐殺と同一視。

→　被害者数は 35 万人にまで増加。
→　世界抗日連合会の影響下にある人物。 関係者の取材に 2 年を費やしたとしているが、自由に取材出来る日本での調査は行っていない。

まとめ

激戦ゆえ、多数の国民党兵が戦死したのは事実。　また、一部に風紀の乱れがあったことも日本軍は認めている。　しかし、「無辜の中国人を 20 万人も虐殺するような事件」は絶対になかったと私は思います。

南京戦の悲惨さを知らしめた有名な写真（アメリカの雑誌に掲載）。　しかし、これは南京市ではなく、上海市。　下記のように作られたものであることが分かっている。

「日本軍によって拉致された農村婦女。このあと凌辱、強姦、銃殺された」と説明されているが、実際は日本のアサヒグラフの写真の盗用で、正しくは、「我が兵に護られて野良仕事より部落へ戻る女子供の群」。

「日本軍の行くところ略奪されて鶏も犬も居なくなった」と説明されているが、実際はこれもアサヒグラフの盗用で、正しくは、「支那民家から買い込んだ鶏を首にぶら下げた兵士」。

12 月の南京は厳寒です。　国民党によるヤラセ写真撮影会の典型例。

極悪人の象徴とされている野田少尉、向井少尉。　「百人斬り裁判から南京へ」稲田朋美に詳しい。

南京大屠杀　日本侵略者所到之处，烧杀淫掠，无恶不作。日军占领南京后，对南京人民进行了血腥大屠杀，犯下了滔天罪行。南京的和平居民，有的被当作练习射击的靶子，有的被当作拚刺刀的对象，有的被活埋。据战后远东国际法庭统计，日军占领南京后6周之内，屠杀手无寸铁的中国居民达30万人以上。

日军在南京以中国青年作拚刺刀的靶子

1937年12月15日，已放下武器的中国军警人员3000余名，被日军解往南京汉中门外，用机枪密集扫射。结果，负伤未死者与死者一起被焚化。

16日，中国难民5000多人，被日军集体押往南京中山码头，双手反绑，排列成行，用机枪扫射后，弃尸江中。其中仅2人逃生。

日军在南京杀人后拭去屠刀上的血迹

18日，日军将被囚于南京幕府山的男女老幼57000余人，全部用铅丝捆绑，驱至下关草鞋峡，用机枪密集扫射。在血泊中尚能呻吟挣扎者，均被刺刀砍戳。最后，日军将全部尸体焚化。其中仅一人幸免。

12月，日本《东京日日新闻》以"紫金山下"为题，报导如下消息：日军少尉向井和野田进行砍杀百人的比赛，野田杀了105人，向井杀了106人，但不知谁先杀到100人，所以胜负难分，重新再赌谁先杀满150名中国人。

左のヤラセ写真がそのまま中国の教科書に掲載されており、野田少尉、向井少尉が百人切り競争をしたと記述されている。

「世界の教科書にみる日本」国際教育情報センター編より

では、現実はどうであったか？　以下、撮影者、撮影時期がはっきりしている写真の数々。
日本軍が歓迎され、治安維持、公衆衛生向上に努めたことが良く分かります。

日本軍の手厚い保護を受ける「支那負傷兵」。12月20日林特派員撮影